

## ごあいさつ

館長 富樫 均

令和3年度も前年からの新型コロナウイルス禍は収束せず、先の見えない日々が続きました。その中で、多くの方々のご協力を得て、延期になっていた町制15周年記念特別展や関連行事等を行うことができました。

季節とともに毎年繰り返されてきた日常の暮らしが、どれほど大切なものであったかを思い知らされる日々です。たとえば、各地区で行われてきた秋祭りの神楽の奉納なども、2シーズンも中止が続くと技術の伝承等の支障になりはしないか、ひいては地区住民の世代間の結びつきにじわじわと悪い影響があるのではと心配されます。こんな状況下にあるからこそ、今できる最善のことを、心を込めてやっていきたいと思えます。細心の注意をしながら、各種行事の開催と町の自然・歴史・文化の情報発信に努めてまいりますので、どうかご支援とご協力をいただきますよう、よろしくお願ひいたします。

## 特別展「飯綱町の文化財」記念講演

### 第1回

#### 苔翁寺山門―修復成果をふまえて

講師：吉澤政己氏（NPO信州伝統的建造物保存技術研究会理事長）  
10月30日（土） 苔翁寺本堂 参加者35名（飯綱町民限定・定員制）

苔翁寺本堂（芋川）を会場に借りして、苔翁寺山門（寛政10年（1798年）建立、町有形文化財）の構造・形式・特徴について講師から詳しいお話をうかがいました。北信地方では長野市善光寺山門に次いで古い二重門であることや、高度な大工技術が用いられた優れた建築であることが紹介されました。講演のあと参加者は、大修理で美しくよみがえった山門を見学し、講師の説明に耳を傾けていました。



苔翁寺山門見学の様子

### 第2回

#### 縄文時代の飯綱町

講師：綿田弘実氏（長野県埋蔵文化財センター調査指導員） 11月7日（日） 飯綱町民会館ホール 参加者49名（飯綱町民限定・定員制）

講師は昭和50年に町有形文化財「注口土器」が出土した小野遺跡（芋川）の発掘調査に参加されて以来、町域の縄文時代遺跡に関心を寄せ続けておられる研究者です。講演では飯綱町域の縄文遺跡の特色について、詳細な図表や写真を示しながら具体的に解説していただきました。「丸山遺跡出土縄文土器」（高坂、町有形文化財）は日本縄文研究史のうえでも注目される文化財であると紹介され、参加者からは「専門的なお話がたくさん聞けて良かった」などの声がありました。



丸山遺跡出土土器の解説

### 第3回

#### 火山灰からわかる

#### 飯綱町周辺の成り立ち

講師：竹下欣宏氏（信州大学教育学部准教授） 12月4日（土） 飯綱町民会館ホール 参加者79名（定員制）  
★信州大学出前講座と共催

町の中で普段何気なく見ている赤土（赤べと）はどうやってできたのでしょうか？火山灰層とローム層に注目し、また町天然記念物「舟石（袖之山）」の成因にも触れながら、町周辺の大地の成り立ちについて、わかりやすくお話をいただきました。講演の後には、東高原で行ったボーリング調査の結果について、会場に持ちこんだ実物の地質標本を見ながら解説していただきました。数十万年にも及ぶスケールの大きな自然の歴史に触れて、参加者から「町の景色を見るのが楽しくなりそう」という感想もありました。



ボーリングコアのはぎとり標本をともに地層を観察している様子